

旅行安全の祈禱（空路）

君や、祝讃せよ。
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋國と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

主憐めよ（三次）。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

來たれ、我等の王神に叩拝せん。
來たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯せん。
來たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

我等安和にして主に祈らん。
主憐めよ。

大聯祷

(以下毎次同様)

見たり、我が為に定められし日は、其一も未だあらざりし先に、皆爾の書に記されたり。神よ、爾の念慮は我が為に何ぞ高き、其数は何ぞ多き。我之を計らんか、然れども其多きこと沙に過ぐ、我寤むる時、尚爾と偕にす。嗚呼神よ、願わくは爾惡者を擊たん、血を流す者よ、我に離れよ。彼等爾に向いて惡を言い、爾の敵は空しきことを謀る。主よ、我豈に爾を疾む者を疾まざらんや、我豈に爾に逆う者を厭わざらんや、我甚しき疾を以て彼等を疾み、彼等を以て我が敵となす。神よ、我を試みて、我が心を知り、我を試みて、我が念慮を知り給え、且觀よ、我危き途に在るにあらずや、乃我を永遠の途に向わしめ給え。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光榮は爾に帰す。(三次)

主よ、爾我を試みて我を識る。我が坐し、我が起つことは、爾之を識る、爾之を環る、我が悉遠きより我の念慮を知る。我が往くにも、我が息うにも、爾我を環る、我が悉くの途は爾之を知れり。我が舌未だ言なきに、爾、主よ、已に全く之を識る。爾前後より我を圍み、爾の手を我に置く。爾の知識は我が為に奇異なり、高尚なり、我之を測る能わず。我安に往きて爾の神を避けん、安に走りて爾の蓋を逃れん、天に升らんか、爾彼處にあり、地獄に降らんか、彼處にも爾あり、曉の翼を取りて、海の極に移らんか、彼處にも爾の手我を導き、爾の右の手我を援けん。或は云わん、闇冥は我を隠し、我を環る光は夜とならんと、然れども闇冥も爾の前に暗からしめざらん、夜も明なること晝の如く、闇冥は光の如し。爾我が臟腑を造り、我が母の腹の中に我を織れり。我爾を讚美す、蓋我奇妙に造られたり。爾の作為は奇異なり、我が靈全く之を知る。我が奥密に造られ、腹の深處に形づくらるる時、我が骨爾に隠れず。我が胚胎は、爾の目之を

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。

教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

我が國の天皇、及び國を司る者の為に主に祈らん。

此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。

氣候順和、五穀豊穣、天下泰平の為に主に祈らん。

航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び彼等の救いの為に主に祈らん。

今、我等と共に祈る爾の僕（婢）〔某〕の願いに耳を傾け、慈憐を以て之を顧みる者や、彼（等）に凡の自由と自由ならざる罪を赦し、彼（等）の空の旅に祝福

を賜わるが為に主に祈らん。

激浪を鎮め、暴風を制する慈憐の主や、彼（等）に心乱れぬ空の旅を賜わるが

為に主に祈らん。

爾の守護神使を遣わして彼（等）を導き、諸の悪及び空中の凡の誘惑より覆い、墮落、殺害、及び凡の予期せぬ状況より彼（等）を護らんが為に主に祈らん。

彼（等）を平安、壮健、有益な旅に護り、静穩にして帰らしむるが為に主に祈らん。

爾の至聖なる名の光榮の為に彼（等）が起てし企の成就、及び彼（等）の靈体の利益となる行為に、降福せんが為に主に祈らん。

爾の恩寵の能力に依り、彼（等）を凡の不幸、窮乏、疾病、突然死、及び死に至る傷より護り、期の満つるに及びて、彼（等）を壮健にして帰らしむるが為に主に祈らん。

爾の僕（婢）〔某〕に慈憐を垂れ、彼（等）の自由と自由ならざる悉の罪を赦し、彼（等）の旅行に祝福を賜わるが為に主に祈らん。

彼（等）に同行者及び教導師たる平安の神使を遣わし、禦ぎ、庇い、守りて、彼等を凡の禍より無難に護らんが為に主に祈らん。

彼（等）を悉の中傷及び敵の攻撃より悩まさる事なく護り、覆い、之を企の

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

輔

に適かないたる空の旅に遣わして、無事に帰らしむるが為に主に祈らん。彼（等）に罪なき平安の旅行及び無事の帰りを、譽ほまれを以て、敬虔けいせんの

卷之三

彼(等)が凡の見ゆると見えざる諸敵と悪人の残害とに悩まされ傷なわれる事なく、平安に護らるるが為に主に祈らん。

彼（等）の善き企に降福し、爾の恩寵を以て、之を靈体の利益と為すが為に主

に初
りん

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・牛乳の馬鹿を以て我等を侮る心の詫極

諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス伸て委託せん

主爾に。

蓋凡そ光榮尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

主は神なり

輔詠輔
主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。 (三次)
(句) 主を尊み讃めよ、^{かた}彼は仁慈にして、その憐みは世々に在ればなり。

王は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。王は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)

(句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐みは世々に在ればなり。

(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

トロパリ（第二調）

救世主や、爾に趨り就き、創造者及び主宰たる爾の右の手の助けと祝福とを求むる彼（等）を棄つる勿れ、昔、至聖なる母の葬りに、地の四極より使徒等を雲に乗せて集めしが如く、今も、至愛にして至善なる生神女の祈祷に因りて、彼（等）に速に、壯健にして静穩なる空の旅を與え給え。

(第五調)

爾は凡そ爾を望む者の助け及び救主なり、爾は善き空の旅を企み之を実行せんとする彼（等）に福を降し賜え、我等凡善き者の創造主たる爾に光榮を帰せんが為なり。

今も何時も世世に、アミン。
生神童貞女や、我等爾の庇護の下に趨り就く、我等病める者の祈りを退くる勿れ、
ひとり聖にして善なるに依りて、我等を禍害より免れしめ給え。

謹みて聴く。
衆人に平安。
爾の神にも。
睿智。

爾の為に其天使に命じて、
なんじのためにそのてんしんじにめいじて、

爾の凡の路に爾を護らしめん。

(使徒行実 八・二六一三九)

書札 (使徒行実 八・二六一三九)
「彼の日、主の使フイリップに告げて曰えり、起ちて南に向いて、イエルサリムよりガザに下る路に避け、其路は野なり。彼起ちて往けり、視よ、エフイオピヤの人、エフイオピヤの女王カンダキヤの寺人にして大臣、其悉くの財寶を司る者は礼拝の為にイエルサリムに來りて、返り、其車に乗りて、預言者イサヤを讀めり。神フイリップに謂えり、前みて、此の車に就け。フイリップ趨り就きて、彼が預言者イサヤを讀むを聴きて曰えり、爾讀む所を曉るか。彼曰えり、

若し我を導く者なくば、我焉ぞ曉るを得ん、乃フイリップに升りて共に坐せん」と
を請えり。其讀める聖書の文は左の如し、彼は羊の如く屠られん為に牽かれた
り、其羔が其毛を剪る者の前に在りて聲なきが如く、彼は此くの若く其口を開か
ず。其卑賤に居る時、彼に於ける裁判は行われたり。然れども其來歴は孰か能
く之を解かん、蓋彼の生命は地より取らると。寺人フイリップに謂えり、請い問
う、預言者の此を言うは、誰を指す、己を指すか、抑他人を指すか、フイリッ
プ其口を開き、此の書より始めて、彼にイイススを福音せり。路を行く時、彼
等は水の有る處に来れり、寺人曰えり、視よ、水あり、我が洗を受くるに何の
礙あるか。フイリップ彼に謂えり、爾若し全き心を以て信せば、可なり。彼答え
て曰えり、我イイスス・ハリストスが神の子たるを信す。乃命じて、車を止め
しめ、フイリップと寺人と共に水に下り、フイリップは彼に洗を授けたり。彼等が水
より上がりし時、聖神は寺人に降り、主の使フイリップを挙げて去り、寺人復め
を見ざりき、乃喜びて其路を行けり。」

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

睿智、肅みて立て、聖福音經を聽くべし。

衆人に平安。
爾の神にも。
イオアン傳の聖福音經の読み。
主や、光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す。
謹みて聽くべし。

福 音 (イオアン一四・一一二)

「主は其門徒に謂えり、爾等の心擾るる母れ、神を信じ、亦我を信ぜよ。我が父
の家に第宅多し。然らずば、我爾等に言いしならん、我往きて、爾等の為に所
を備えん。往きて、爾等の為に所を備えば、復來りて、爾等を接けて、我に就
かしめん、我が居る所に爾等も居らん為なり。我が何処に往くを爾等知り、其道
をも知る。フォマ彼に謂う、主よ、我等は爾の何処に往くを知らず、焉ぞ其道
を知るを得ん。イイスス之に謂う、我は道なり、眞実なり、生命なり、人若し我
に由らずば、父に来るなし。爾等若し我を識らば、我が父をも識らん。今より爾
等彼を識り、且彼を見たり。フイリップ彼に謂う、主よ、我等に父を示せ、然ら

ば我等に足る。イイスス之に謂う、フイリップよ、我斯く久しう爾等と偕にするに、爾未だ我を識らざるか。我を見し者は、父を見しなり、如何ぞ爾等我に父を示せと云う。我の父に居り、父の我に居ることを爾等信ぜざるか。我が爾等に言う所の言は、己に由りて言うに非ず、我に居る父は、彼事を行うなり。爾等、我が父に居り、父も我に居ると云うを、我に信ぜよ。」
主や、光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す。

重聯祷

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

主憐めよ。(三次)

(以下毎次同様)

又我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。
又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

昔、預言者を天空の旅行者とし、使徒を地の四極より雲に乗せて聖都に集め賜い

し主や、今、慎みて爾に首を屈めて祈る爾の僕(婢)〔某〕を天より顧み、彼(等)に静穏、平安にして、心乱れる事なき空の旅を祝福し賜わんが為に祈る、最と慈憐なる主や、聆き納れて憐めよ。

主や、爾の神使を遣し、空の旅を企む爾の僕(婢)を其翼の蔭に庇陰い、空中の凡の権力を退け賜わん事を爾に祈る、最と宏恩なる主や、聆き納れて憐めよ。主や、爾の僕(婢)の善き企に降福し、彼(等)の祈りを納めて、恙なき空の旅に祝福を垂れ、彼(等)に時に適いたる帰りを賜わんが為に祈る、至仁なる主や、速に聆き納れて憐めよ。

爾の至栄なる昇天と、天空の初旅行者火の車に乗りたるイリヤを以て、天空を成聖せし主や、爾の僕(婢)〔某〕の祈りを納れ、彼(等)に平安なる空の旅を祝福し、彼(等)を死に至る傷及び凡の禍より免れしめ賜わんが為に祈る、最と宏恩なる主や、聆き納れて憐めよ。

萬物の創造者及び守護者たる者に、聖なる願いと眞の望みとを託す爾の僕(婢)を、凡の不安及び懼れより護り、彼(等)が軽き雲に乗りて、空路を歎びの中に平安に渡り、爾の至聖なる名の光栄の為に、時に適いて帰るを賜わんが為に祈る、

輔

輔

輔

輔

輔

輔

詠

詠

全能の主や、聆き納^きれて憐めよ。

神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との頼みや、我等に聴き給え、主宰や、我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。

アミン。

謹んで、爾等の膝^{ひざ}と首^{こうべ}を屈めて、主に祈らん。

主憐めよ。(三次)

※(皆膝を屈む、司祭は彼等に向いて王門の中央に立ち、高声を以て左の祝文を誦す。)

凡の物に命じ、之を己の権内に保ち賜う主宰、主イイスス・ハリストス我等の神や、爾の前に深淵は震え、星は顕れ、万象は爾に仕え、爾に聴き、爾に従う。爾は能わざる所無き最^{さい}と慈憐なる主なるに由りて、憐^{あわれみ}を垂れ、今、此の爾の僕(婢)^{めい}【某】の熱心な祈りを納^いれて、彼(等)の道及び空の旅に福を降し、大風と逆風^{ぎやくふう}を戒め、航空機を無玷^{むてん}に護り賜え。静穩^{せいおん}なる空の途を護り、彼(等)の善き企を成就せしめ、壯健にして歎びの中に満足の行く旅から帰るを賜わんが

為に祈る。蓋爾は救世主、贖罪主及び天地の凡の善き物を創りし主なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に。

アミン。

※(司祭、十字架に接吻せしめ、彼(等)に聖水を灌ぎ、祝福して曰く。)

願わくは主はシオンより爾(等)に降福し、爾(等)は在世の諸日イエルサリムの安寧^{あんねい}を視ん、願くは主は其聖なる名の光榮の為に、爾(等)の途を平安に導かん。

アミン。

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言^{かみことば}を生みし、実の生神女たる爾^{たのみ}を崇め讃む。

ハリストス神我等の侍^{たま}や、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

司 詠 輔 詠

司 詠 輔 詠

司 詠 輔 詠

司 詠

司 詠

司 詠 輔 詠

司 詠 輔 詠

詠
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

福を降せ。

司
ハリストス我等の真の神は、その至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亞使徒
日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は
善にして人を愛する主なればなり。

詠
アミン。

幾歳も

輔
主や、今此處に立ちて祈る神の僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壯
健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。
幾歳も。（三次）